

オープンセミナーを開催

「安全文化醸成」テーマに

三井住友海上、MS&ADインターリスク総研

三井住友海上とMS&ADインターリスク総研は7月18日、東京都千代田区の三井住友海上駿河台新館TKPガーデンシティ御茶ノ水でオープンセミナー「安全文化醸成」の発生防止に向けて「」を開催した。当日は安全文化醸成の重要性と安全に関する具体的な取り組みについての講演が行われ、物流業を中心に製造業、流通業、不動産業の総務部門の担当者約80人が出席した。



中村社長



高野氏

開催に当たり、MS&ADインターリスク総研の中村光身社長が、「本日のセミナーでは、安全文化醸成をテーマに、その考え方と組織としての」を話した。第一部では、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授の高野研一氏が「安全文化とは何か、なぜ必要なのか、その醸成」をテーマに講演した。

戦略と具体的な取り組み」をテーマに講演。安全文化への理解を得た上で、その必要性と組織としての取り組みの方向性・重要性について述べ、その醸成戦略と具体的な取り組みについて紹介した。



当日は物流業を中心に約80人が出席

同氏は「安全文化の醸成は企業の健全な発展に結び付くという強い信念を持つこと、また、組織の安全文化醸成の鍵としては不断の努力を継続す

れがちな潜在的リスクの発見・除去に地道に対応していくことだ。上下、左右、組織の壁を超えた安全活動によって事故を

た。第二部では、日本ゼオン(株)総合生産センター環境安全部の松林秀幸氏が「診断結果による弱点の改善例とその展開方法について」をテーマに講演。主力工場の実施した安全文化診断の結果を踏まえ、自発的に弱点の改善に取り組む方法を考察したことから、これからの具体的な取り組みや今後の展開方法について紹介した。

第三部では、スカイマーク(株)執行役員の原高太郎氏が「航空会社の飲酒問題」をテーマに講演。航空業界で発生している飲酒に関する不適切な事案について、業界全体として、また、個社として再発防止を図るための取り組みについて紹介した。

スクママネジメント第一の石田勝彦氏が「安全文化の理解と醸成へ向けたアプローチ」について講演。安全管理の責任者が安全文化を理解した後には「浸透させる」というステップが必要となることから、全社員に分かりやすく理解させるための方法や同グループが行っている安全文化醸成へ向けた取り組みについて紹介した。

自律的安全活動が鍵に

るための『動機づけ』が大切」と話した。その上で、「安全文化の目的は、組織を挙げて無視さ

普遍的な安全価値共有が安全文化の推進力。個人・職場・組織としての実効性や活性化により、安

減らせるだけでなく、人間関係性を重視する組織全体の健全性を高めることになると締めくく